

#iiiwate “いい岩手” SNS キャンペーン 2021 の実施について

県民や岩手ファンの方々がSNSを使って岩手の魅力や復興の状況を発信し、一緒に岩手を盛り上げる「#iiiwate“いい岩手”SNS キャンペーン 2021」をTwitterとInstagramで実施します。

1 事業の狙い

岩手県民や岩手ファンによる、岩手の四季、東日本大震災津波からの復興などに関するSNS投稿を促すことで、本県の魅力や復興状況を広く発信・拡散し、本県に対する認知度や愛着の向上を図る。

今年は、平泉世界遺産登録10周年を迎えるとともに、御所野縄文遺跡の世界遺産登録が見込まれることに着目し、フォトコンテストに特別部門を設ける。

2 キャンペーン期間

令和3年7月6日（火）～12月31日（金）

3 キャンペーン概要

(1) SNS投稿促進

ア Twitter企画

キャンペーンアカウントをフォローし、「#iiiwate」を付けて岩手の魅力情報を投稿した方に、抽選でオリジナルQUOカードをプレゼントする。

イ Instagram企画

「#iiiwate」を付けて毎月のテーマに沿った投稿をした方に、抽選で県産品をプレゼントする。

(2) フォトコンテスト

岩手の四季の魅力や東日本大震災津波から復興に進む三陸の姿を被写体としたフォトコンテストを、TwitterとInstagram上で実施し、入賞作品を決定する。

また、岩手の世界遺産については、特別部門として実施する。

※各企画の詳細は別紙のとおり

キャンペーンの情報は、ポータルサイト、Twitter及びInstagramで紹介しています。

| ツール | URL・ユーザー名等 |
|-----------|---|
| ポータルサイト | https://www.iiiwate.jp/ |
| Twitter | ユーザー名：@iiiwate |
| Instagram | ユーザーネーム：@iiiwate_official |

キャンペーン企画の詳細

1 SNS 投稿促進

(1) Twitter 企画

| 募集期間 | 応募要件 | 賞品 |
|--------------------|--|------------------------------|
| 【1期】 7/6～9/30 | ①キャンペーンアカウントをフォロー ②「#iiiwate」を付けて、岩手の行きたい場所やおすすめの観光地、県産品などを投稿 | QUOカード500円 計200名分（各期100名） |
| 【2期】 10/1～12/31 | | |

(2) Instagram 企画

| 募集期間 | 応募要件 | 賞品 |
|--------|------------------------------------|---------------------------------|
| 7月～12月 | 「#iiiwate」を付けて毎月のテーマに沿って投稿（リールを含む） | 県産品 総額3,000円相当 計18名分（6カ月×3名） |

テーマ・・・7月「岩手の夏」、8月「岩手の海」、9月「岩手の伝統芸能」、10月「岩手の食」、11月「岩手の秋」、12月「岩手の技」

2 フォトコンテスト

(1) 企画概要

TwitterとInstagramで、「#iiiwate」及び各部門のハッシュタグを付けた投稿を募集し、県及び東京カメラ部で審査の上、入賞者15名を決定する。

(2) 応募条件

ア 2つのアカウント（#iiiwateキャンペーンアカウントと、東京カメラ部キャンペーン用アカウント）をフォロー

イ 「#iiiwate」に加え、各部門のハッシュタグを付け、SNSへ投稿

| | 部門名 | 募集期間 |
|------|----------|-----------------|
| 部門① | #岩手の四季 | 令和3年7月6日～12月23日 |
| 部門② | #三陸復興 | |
| 特別部門 | #岩手の世界遺産 | |

(3) 賞品

| 賞品 | 最優秀賞 (1名) | 部門賞 (2名) | 特別部門賞 (1名) | 入賞 (11名) |
|--------|--------------|-------------|---------------|-------------|
| 県産品 | 30,000円相当 | 15,000円相当 | 20,000円相当 | 3,000円相当 |
| QUOカード | 5,000円 | 5,000円 | 5,000円 | 1,000円 |

※上記に加え、最優秀賞、部門賞及び特別部門賞には、キオクシア株式会社から賞品として「SDメモリカード」を提供

(4) 受賞作品の活用

最優秀賞作品については、岩手県広報誌「いわてグラフ」に掲載するなど、県の広報媒体で活用していく。